

大きな宝

児童数 514名
 発行責任者 栗東市立大宝小学校
 校長 坂東 靖記
 発行日 令和7年11月26日

障がい児・者理解教育

「多様性」の尊重がますます重要になっている現代社会では、子どもたちに、さまざまな背景や特性がある人々と共に生きる力を育む必要があります。そのために欠かせないものの一つが、障がいのある人への理解を深める教育です。

本校では、下記の学年の総合的な学習の時間等で計画的に学習を進めています。

- ・3年生…パラリンピックや障スポを例にボッチャ体験をしたり、身近な施設のバリアフリーを探したりすることを通して学ぶ。
- ・4年生…手話や点字を用いたコミュニケーションに触れたり、生活の工夫を調べたりすることを通して学ぶ。
- ・5年生…車いす体験を通して、身の回りのバリア（壁）に気づき、共に生きるために自分の行動について考える。

これらの内容については、今後も見直しを繰り返して、学びの充実に努めています。例えば、発達障がいについては、障がいのある人の困り感に気づきにくく、理解することが難しい部分があります。このような課題を踏まえ、よりよい学習内容や方法を検討するとともに、教職員自身が研修等を通して理解を深めていきたいと考えています。

本校の目指す子ども像の3つ目は、「ほのぼの お互いの持ち味を認め合う子【共生】」です。

この「共生」という考え方には、いじめや差別がない誰もが安心して暮らせる社会をつくるための基盤です。障がいのある人もない人も、互いに支え合い、協力しながら生活することが、一人一人がいきいきと自分の個性や持ち味を發揮することにつながり、豊かな社会を築きます。

小学校での理解教育は、その第一歩です。

本校では、障がい児・者理解教育のほかにも、4年生での「認知症サポーター養成講座」、2年生と5年生での人権擁護委員さんを招いた人権学習などを実施しています。

◆11月21日の学習参観日には、たくさんの保護者様に学びの様子を参観いただき、また、その後の清掃ボランティアにも多数の参加をいただきました。ありがとうございました。

本校では、子どもが主体的に行動し、集団や社会の役に立つ経験を重ねるために、「ピンクレンジャーのあいさつ運動」のほか「花の苗植え」「季節の掲示物作成」（ともに環境委員会企画）、などボランティアで参加する機会を意図的に設けています。

先日、花の苗植えをした際の募集ポスターです。たくさんのボランティアが集まりました。やらされているのではなく、自分から進んで参加しているので、みんな楽しそうに苗植えをしていて、とても嬉しく思いました。

